

## 目次

- 1 対応をつけることと数えること
- 2 全射
- 3 単射
- 4 全単射と逆関数
- 5 今日のまとめ

## 新幹線の指定席



単射の例

## 全射

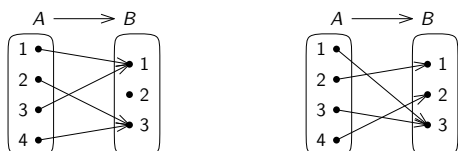
集合  $A, B$  と関数  $f: A \rightarrow B$

全射とは？

$f$  が全射であるとは、次を満たすこと

すべての  $b \in B$  に対して、ある  $a \in A$  が存在して  $b = f(a)$

論理記号で書くと「 $\forall b \in B (\exists a \in A (b = f(a)))$ 」



### 今日の目標

- ▶ 特殊な関数「全射」、「単射」、「全単射」を理解する
- ▶ 全単射の逆関数を理解する

## マンツーマンディフェンス



全単射の例

## 目次

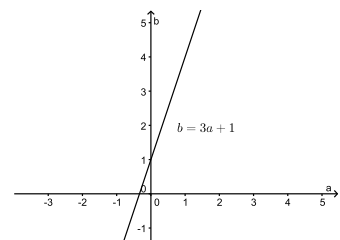
- 1 対応をつけることと数えること
- 2 全射
- 3 単射
- 4 全単射と逆関数
- 5 今日のまとめ

## 例題 1

### 例題 1

次の関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  が全射であることを証明せよ。

任意の  $a \in \mathbb{R}$  に対して  $f(a) = 3a + 1$



## 例題 1: 続き

## 例題 1

次の関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  が全射であることを証明せよ.

任意の  $a \in \mathbb{R}$  に対して  $f(a) = 3a + 1$

## 定義に基づいて書き直す

すべての  $b \in \mathbb{R}$  に対して, ある  $a \in \mathbb{R}$  が存在して,  $b = 3a + 1$

## 例題 1: 論理操作

使える性質 (仮定)

$$b \in \mathbb{R}$$

導く性質 (目標)

$$\forall b \in \mathbb{R} (\exists a \in \mathbb{R} (b = 3a + 1))$$

$$\exists a \in \mathbb{R} (b = 3a + 1)$$

$b \in \mathbb{R}$  は任意に選ぶ

導く性質が「 $\forall$ 」で始まる構造

## 例題 1: 論理操作

使える性質 (仮定)

$$b \in \mathbb{R}$$

$$\frac{b-1}{3} \in \mathbb{R}$$

導く性質 (目標)

$$\forall b \in \mathbb{R} (\exists a \in \mathbb{R} (b = 3a + 1))$$

$$\exists a \in \mathbb{R} (b = 3a + 1)$$

$$b = 3\left(\frac{b-1}{3}\right) + 1$$

$a = \frac{b-1}{3}$  とする

構成による証明 (導く性質が「 $\exists$ 」で始まる構造)

## 例題 1: 文章構造

全射の定義から、「すべての  $b \in \mathbb{R}$  に対して, ある  $a \in \mathbb{R}$  が存在して,  $b = 3a + 1$ 」となることを証明すればよい.

任意の  $b \in \mathbb{R}$  を選ぶ.

このとき,  $\frac{b-1}{3} \in \mathbb{R}$ .

$a = \frac{b-1}{3}$  とすると,  $a \in \mathbb{R}$  であり,  $b = 3\frac{b-1}{3} + 1 = 3a + 1$ .

したがって、「すべての  $b \in \mathbb{R}$  に対して, ある  $a \in \mathbb{R}$  が存在して,  $b = 3a + 1$ 」となる.

したがって,  $f$  は全射である.  $\square$

注: これは「構成による証明」で,  $\frac{b-1}{3}$  を構成した.

しかし, どうやって見つけたのかは証明に書かない.

## 例題 1: 論理操作

使える性質 (仮定)

$$b \in \mathbb{R}$$

$$\frac{b-1}{3} \in \mathbb{R}$$

導く性質 (目標)

$$\forall b \in \mathbb{R} (\exists a \in \mathbb{R} (b = 3a + 1))$$

## 例題 1: 論理操作

使える性質 (仮定)

$$b \in \mathbb{R}$$

$$\frac{b-1}{3} \in \mathbb{R}$$

導く性質 (目標)

$$\forall b \in \mathbb{R} (\exists a \in \mathbb{R} (b = 3a + 1))$$

$$\exists a \in \mathbb{R} (b = 3a + 1)$$

実数の性質から

$a = \frac{b-1}{3}$  とする

式を整理

## 例題 1: 証明の清書

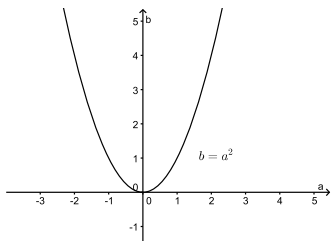
- ▶ 全射の定義から、「すべての  $b \in \mathbb{R}$  に対して, ある  $a \in \mathbb{R}$  が存在して,  $b = 3a + 1$ 」となることを証明すればよい.
- ▶ 任意の  $b \in \mathbb{R}$  を選ぶ.
- ▶ このとき,  $\frac{b-1}{3} \in \mathbb{R}$ .
- ▶  $a = \frac{b-1}{3}$  とすると,  $a \in \mathbb{R}$  であり,  $b = 3\frac{b-1}{3} + 1 = 3a + 1$ .
- ▶ したがって、「すべての  $b \in \mathbb{R}$  に対して, ある  $a \in \mathbb{R}$  が存在して,  $b = 3a + 1$ 」となる.
- ▶ したがって,  $f$  は全射である.  $\square$

## 例題 2

## 例題 2

次の関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  が全射でないことを証明せよ。

任意の  $a \in \mathbb{R}$  に対して  $f(a) = a^2$



## 例題 2 : 論理操作

使える性質 (仮定)

導く性質 (目標)

$\exists b \in \mathbb{R} (\forall a \in \mathbb{R} (b \neq a^2))$

## 例題 2 : 論理操作

使える性質 (仮定)

$-1 \in \mathbb{R}$

導く性質 (目標)

$\exists b \in \mathbb{R} (\forall a \in \mathbb{R} (b \neq a^2))$   
 $\forall a \in \mathbb{R} (-1 \neq a^2)$

$b = -1$  とする

構成による証明 (導く性質が「 $\exists$ 」で始まる構造)

## 例題 2 : 論理操作

使える性質 (仮定)

$-1 \in \mathbb{R}$

$a \in \mathbb{R}$

$a^2 \geq 0$

導く性質 (目標)

$\exists b \in \mathbb{R} (\forall a \in \mathbb{R} (b \neq a^2))$   
 $\forall a \in \mathbb{R} (-1 \neq a^2)$   
 $-1 \neq a^2$

$b = -1$  とする  
 $a \in \mathbb{R}$  を任意に選ぶ

実数の性質

## 例題 2 : 続き

## 例題 2

次の関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  が全射でないことを証明せよ。

任意の  $a \in \mathbb{R}$  に対して  $f(a) = a^2$

定義に基づいて書き直す

「すべての  $b \in \mathbb{R}$  に対して、ある  $a \in \mathbb{R}$  が存在して、 $b = a^2$ 」ではない

同値変形によって書き直す

ある  $b \in \mathbb{R}$  が存在して、どんな  $a \in \mathbb{R}$  に対しても、 $b \neq a^2$

復習 (「 $\forall$  の否定」と「 $\exists$  の否定」)

$$\begin{aligned} \neg(\forall x (\exists y (P(x, y)))) &\Leftrightarrow \exists x (\neg(\exists y (P(x, y)))) \\ &\Leftrightarrow \exists x (\forall y (\neg P(x, y))) \end{aligned}$$

## 例題 2 : 論理操作

使える性質 (仮定)

$-1 \in \mathbb{R}$

導く性質 (目標)

$\exists b \in \mathbb{R} (\forall a \in \mathbb{R} (b \neq a^2))$

実数の性質

## 例題 2 : 論理操作

使える性質 (仮定)

$-1 \in \mathbb{R}$

$a \in \mathbb{R}$

導く性質 (目標)

$\exists b \in \mathbb{R} (\forall a \in \mathbb{R} (b \neq a^2))$   
 $\forall a \in \mathbb{R} (-1 \neq a^2)$   
 $-1 \neq a^2$

$b = -1$  とする  
 $a \in \mathbb{R}$  を任意に選ぶ

導く性質が「 $\forall$ 」で始まる構造

## 例題 2 : 論理操作

使える性質 (仮定)

$-1 \in \mathbb{R}$

$a \in \mathbb{R}$

$a^2 \geq 0$

$-1 \neq a^2$

導く性質 (目標)

$\exists b \in \mathbb{R} (\forall a \in \mathbb{R} (b \neq a^2))$   
 $\forall a \in \mathbb{R} (-1 \neq a^2)$   
 $-1 \neq a^2$

$b = -1$  とする  
 $a \in \mathbb{R}$  を任意に選ぶ

実数の性質

## 例題 2 : 文章構造

全射の定義から、「ある  $b \in \mathbb{R}$  が存在して、どんな  $a \in \mathbb{R}$  に対しても  $b \neq a^2$ 」となることを証明すればよい。

$b = -1$  とすると、 $b \in \mathbb{R}$  .

$a \in \mathbb{R}$  を任意に選ぶ .

このとき、 $a^2 \geq 0$  . したがって、 $-1 \neq a^2$  .

したがって、「どんな  $a \in \mathbb{R}$  に対しても  $-1 \neq a^2$ 」.

したがって、「ある  $b \in \mathbb{R}$  が存在して、どんな  $a \in \mathbb{R}$  に対しても  $b \neq a^2$ 」となる .

したがって、 $f$  は全射ではない。 □

注：これも「構成による証明」で、 $-1$  を構成した。  
しかし、どうやって見つけたのかは証明に書かない。

## 補足：反例

## 例題 2 (再掲)

次の関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  が全射でないことを証明せよ .

$$\text{任意の } a \in \mathbb{R} \text{ に対して } f(a) = a^2$$

## 定義と同値変形によって書き直した (再掲)

ある  $b \in \mathbb{R}$  が存在して、どんな  $a \in \mathbb{R}$  に対しても、 $b \neq a^2$

- ▶ 証明は「 $b = -1$ 」として、進んだ
- ▶  $b = -1$  は例題 2 の関数が全射であることの反例である
- ▶ 「 $b = -1$ 」でなくても「 $b = -2$ 」でもよかった

## 目次

- 1 対応をつけること と 数えること
- 2 全射
- 3 単射
- 4 全単射と逆関数
- 5 今日のまとめ

## 例題 3

## 例題 3

次の関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  が単射であることを証明せよ .

$$\text{任意の } a \in \mathbb{R} \text{ に対して } f(a) = 3a + 1$$

## 定義に基づいて書き直す

すべての  $a, a' \in \mathbb{R}$  に対して、 $3a + 1 = 3a' + 1$  ならば  $a = a'$

## 例題 2 : 証明の清書

- ▶ 全射の定義から、「ある  $b \in \mathbb{R}$  が存在して、どんな  $a \in \mathbb{R}$  に対しても  $b \neq a^2$ 」となることを証明すればよい .
- ▶  $b = -1$  とすると、 $b \in \mathbb{R}$  .
- ▶  $a \in \mathbb{R}$  を任意に選ぶ .
- ▶ このとき、 $a^2 \geq 0$  . したがって、 $-1 \neq a^2$  .
- ▶ したがって、「どんな  $a \in \mathbb{R}$  に対しても  $-1 \neq a^2$ 」.
- ▶ したがって、「ある  $b \in \mathbb{R}$  が存在して、どんな  $a \in \mathbb{R}$  に対しても  $b \neq a^2$ 」となる .
- ▶ したがって、 $f$  は全射ではない。 □

## 補足：始域・終域の違いと全射性の違い

見た目が同じでも、始域・終域が違うと全射かどうか変わるかも

次の 4 つの関数は全射か？

- ▶  $f_1: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ ,  $f_1(a) = a^2$
- ▶  $f_2: \mathbb{R} \rightarrow [0, \infty)$ ,  $f_2(a) = a^2$
- ▶  $f_3: [0, \infty) \rightarrow [0, \infty)$ ,  $f_3(a) = a^2$
- ▶  $f_4: [0, 1] \rightarrow [0, \infty)$ ,  $f_4(a) = a^2$

## 格言 (再掲)

関数の始域と終域を常に意識 (似たものに「行列のサイズ」がある)

## 単射

集合  $A, B$  と関数  $f: A \rightarrow B$

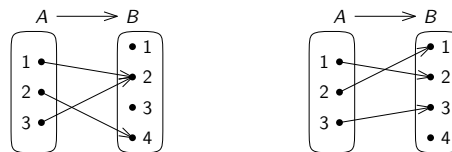
## 単射とは？

$f$  が単射であるとは、次を満たすこと

$$\text{すべての } a, a' \in A \text{ に対して、} f(a) = f(a') \text{ ならば } a = a'$$

論理記号で書くと「 $\forall a, a' \in A ((f(a) = f(a')) \rightarrow (a = a'))$ 」

もっと正確に書くと「 $\forall a \in A (\forall a' \in A (((f(a) = f(a')) \rightarrow (a = a'))))$ 」



## 例題 3 : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
	$\forall a, a' \in \mathbb{R} ((3a + 1 = 3a' + 1) \rightarrow (a = a'))$

例題 3 : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$a, a' \in \mathbb{R}$	$\forall a, a' \in \mathbb{R} ((3a+1=3a'+1) \rightarrow (a=a'))$ $(3a+1=3a'+1) \rightarrow (a=a')$

$a, a' \in \mathbb{R}$  は任意に選ぶ

導く性質が「 $\forall$ 」で始まる構造

例題 3 : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$a, a' \in \mathbb{R}$ $3a+1=3a'+1$ $a=a'$	$\forall a, a' \in \mathbb{R} ((3a+1=3a'+1) \rightarrow (a=a'))$ $(3a+1=3a'+1) \rightarrow (a=a')$ $a=a'$

実数の性質

例題 4

例題 4

次の関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  が単射でないことを証明せよ。

任意の  $a \in \mathbb{R}$  に対して  $f(a) = a^2$

定義に基づいて書き直す

「すべての  $a, a' \in \mathbb{R}$  に対して、 $a^2 = a'^2$  ならば  $a = a'$ 」ではない

例題 4 : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$\exists a, a' \in \mathbb{R} (a^2 = a'^2 \wedge a \neq a')$	

例題 3 : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$a, a' \in \mathbb{R}$ $3a+1=3a'+1$	$\forall a, a' \in \mathbb{R} ((3a+1=3a'+1) \rightarrow (a=a'))$ $(3a+1=3a'+1) \rightarrow (a=a')$ $a=a'$

導く性質が「 $\rightarrow$ 」の構造

例題 3 : 文章構造

単射の定義から、「すべての  $a, a' \in \mathbb{R}$  に対して、 $3a+1=3a'+1$  ならば  $a=a'$ 」となることを証明すればよい。

任意の  $a, a' \in \mathbb{R}$  を考える。

$3a+1=3a'+1$  であると仮定する。

このとき、 $a=a'$ 。

したがって、「 $3a+1=3a'+1$  ならば  $a=a'$ 」となる。

したがって、「すべての  $a, a' \in \mathbb{R}$  に対して、 $3a+1=3a'+1$  ならば  $a=a'$ 」となる。

したがって、 $f$  は単射である。

清書は省略 (各自行う)

例題 4 : 続き

定義に基づいて書き直す (再掲)

「すべての  $a, a' \in \mathbb{R}$  に対して、 $a^2 = a'^2$  ならば  $a = a'$ 」ではない

同値変形によって書き直す

ある  $a, a' \in \mathbb{R}$  に対して、 $a^2 = a'^2$  かつ  $a \neq a'$

復習 (「 $\exists$ 」の否定、「含意の書換」、「ド・モルガンの法則」、「二重否定」)

$$\begin{aligned} \neg(\forall x (\forall y (P(x, y) \rightarrow Q(x, y)))) &\Leftrightarrow \exists x (\neg(\forall y (P(x, y) \rightarrow Q(x, y)))) \\ &\Leftrightarrow \exists x (\exists y (\neg(P(x, y) \rightarrow Q(x, y)))) \\ &\Leftrightarrow \exists x (\exists y (\neg(\neg P(x, y) \vee Q(x, y)))) \\ &\Leftrightarrow \exists x (\exists y (\neg\neg P(x, y) \wedge \neg Q(x, y))) \\ &\Leftrightarrow \exists x (\exists y (P(x, y) \wedge \neg Q(x, y))) \end{aligned}$$

例題 4 : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$1 \in \mathbb{R}$ $-1 \in \mathbb{R}$	$\exists a, a' \in \mathbb{R} (a^2 = a'^2 \wedge a \neq a')$

実数の性質

例題 4 : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$1 \in \mathbb{R}$	$\exists a, a' \in \mathbb{R} (a^2 = a'^2 \wedge a \neq a')$
$-1 \in \mathbb{R}$	$a^2 = a'^2 \wedge a \neq a'$
$a = 1$	
$a' = -1$	

$a = 1, a' = -1$  とおく

導く性質が「 $\exists$ 」で始まる構造

証明する目標が「 $\wedge$ 」の場合  
と を別々に証明する

例題 4 (前半) : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$1 \in \mathbb{R}$	$\exists a, a' \in \mathbb{R} (a^2 = a'^2 \wedge a \neq a')$
$-1 \in \mathbb{R}$	$a^2 = a'^2 \wedge a \neq a'$
$a = 1$	$a^2 = a'^2$
$a' = -1$	
$a^2 = 1$	

実数の性質

例題 4 (前半) : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$1 \in \mathbb{R}$	$\exists a, a' \in \mathbb{R} (a^2 = a'^2 \wedge a \neq a')$
$-1 \in \mathbb{R}$	$a^2 = a'^2 \wedge a \neq a'$
$a = 1$	$a^2 = a'^2$
$a' = -1$	
$a^2 = 1$	
$a'^2 = 1$	
$a^2 = a'^2$	

等号の性質

例題 4 : 文章構造

単射の定義から、「ある  $a, a' \in \mathbb{R}$  に対して、 $a^2 = a'^2$  かつ  $a \neq a'$ 」となることを証明すればよい。

$a = 1, a' = -1$  とすると、 $a, a' \in \mathbb{R}$  .

このとき、 $a^2 = 1$  かつ  $a'^2 = 1$  なので、 $a^2 = a'^2$  .  
そして、 $a \neq a'$  .

したがって、「ある  $a, a' \in \mathbb{R}$  に対して、 $a^2 = a'^2$  かつ  $a \neq a'$ 」となる。

したがって、 $f$  は単射ではない。 □

例題 4 : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$1 \in \mathbb{R}$	$\exists a, a' \in \mathbb{R} (a^2 = a'^2 \wedge a \neq a')$
$-1 \in \mathbb{R}$	$a^2 = a'^2 \wedge a \neq a'$
$a = 1$	$a^2 = a'^2$
$a' = 1$	

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$1 \in \mathbb{R}$	$a \neq a'$
$-1 \in \mathbb{R}$	
$a = 1$	
$a' = -1$	

例題 4 (前半) : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$1 \in \mathbb{R}$	$\exists a, a' \in \mathbb{R} (a^2 = a'^2 \wedge a \neq a')$
$-1 \in \mathbb{R}$	$a^2 = a'^2 \wedge a \neq a'$
$a = 1$	$a^2 = a'^2$
$a' = -1$	
$a^2 = 1$	
$a'^2 = 1$	

実数の性質

例題 4 (後半) : 論理操作

使える性質 (仮定)	導く性質 (目標)
$1 \in \mathbb{R}$	$a \neq a'$
$-1 \in \mathbb{R}$	
$a = 1$	
$a' = -1$	
$a \neq a'$	

等号の性質

補足 : 始域・終域の違いと単射性の違い

見方が同じでも、始域・終域が違うと単射かどうか変わるかも

次の 4 つの関数は単射か？

- ▶  $f_1: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}, f_1(a) = a^2$
- ▶  $f_2: \mathbb{R} \rightarrow [0, \infty), f_2(a) = a^2$
- ▶  $f_3: [0, \infty) \rightarrow [0, \infty), f_3(a) = a^2$
- ▶  $f_4: [0, 1] \rightarrow [0, \infty), f_4(a) = a^2$

格言 (再々掲)

関数の始域と終域を常に意識

(似たものに「行列のサイズ」がある)

- ① 対応をつけること と 数えること
- ② 全射
- ③ 単射
- ④ 全単射と逆関数
- ⑤ 今日のまとめ

## 逆関数

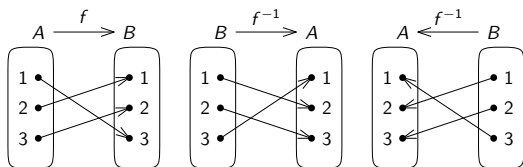
集合  $A, B$  と全単射  $f: A \rightarrow B$

## 逆関数とは？

$f$  の逆関数とは  $f^{-1}: B \rightarrow A$  で、

任意の  $a \in A, b \in B$  に対して  $a = f^{-1}(b)$  と  $b = f(a)$  が同値となるものことである

論理記号で書くと「 $\forall a \in A (\forall b \in B (a = f^{-1}(b) \leftrightarrow b = f(a)))$ 」

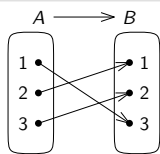


## 逆関数と逆像：注意

## 注意

関数  $f: A \rightarrow B$

- ▶  $Y \subseteq B$  のとき、 $f^{-1}(Y)$  は  $Y$  の逆像
  - ▶  $f$  が全単射であろうがなかろうが定義される
- ▶  $b \in B$  のとき、 $f^{-1}(b)$  は  $f$  の逆関数  $f^{-1}$  の  $b$  における値
  - ▶  $f$  が全単射であるときのみ定義される



- ▶  $f^{-1}(\{1, 2\}) = \{2, 3\}$
- ▶  $f^{-1}(\{2\}) = \{3\}$
- ▶  $f^{-1}(2) = 3$

## もう一つ注意

全単射の逆関数も全単射 (演習問題)

## 今日のまとめ

## 関数とそれに関わる概念

- ▶ 全射, 単射, 全単射
- ▶ 全単射の逆関数

## 証明の作り方

- ▶ 「ではない」ことの証明で使う 反例 (構成による証明)

集合  $A, B$  と関数  $f: A \rightarrow B$

## 全単射とは？

$f$  が全単射であるとは、全射であり、かつ、単射であること



## 例題 5

## 例題 5

次の関数  $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$

$$\text{任意の } a \in \mathbb{R} \text{ に対して } f(a) = 3a + 1$$

は全単射であるが (例題 1, 3), その逆関数  $f^{-1}: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  が

$$\text{任意の } b \in \mathbb{R} \text{ に対して } f^{-1}(b) = \frac{b-1}{3}$$

で与えられることを証明せよ.

証明：同値変形により証明する.

$$b = f(a) \Leftrightarrow b = 3a + 1 \Leftrightarrow a = \frac{b-1}{3} \Leftrightarrow a = f^{-1}(b).$$

□

## 目次

- ① 対応をつけること と 数えること
- ② 全射
- ③ 単射
- ④ 全単射と逆関数
- ⑤ 今日のまとめ